

美術科学習指導案

学 級 : 3 年 1 組 31 人
場 所 : 美 術 室
指 導 者 : 教 諭 情 松 育 美

1 題材名 「伝える, 日本の伝統美」 (3年 鑑賞)

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、尾形光琳の「紅白梅図屏風」を鑑賞し、日本の伝統美について自分が感じたことをグループで話し合ったり調べたりして深めていき、そのよさについて工夫して分かりやすく外国の方や友達に紹介する、という学習内容である。

本題材で使用する「紅白梅図屏風」は原寸大のレプリカを使う。本物により近いものを鑑賞することにより作品に込められた作者の思いや造形的な美しさ、日本の伝統美のよさなどを深く味わうことができると考える。さらに、日本とは文化の違う国の方にこの屏風を紹介したり、他国の美術作品と比較したりすることで鑑賞の幅が広がり、日本の伝統美の特色をよりよく理解するとともに美術を通じた国際理解にも視野を広げることができる。

「紅白梅図屏風」は、紅と白の色の対比、枝を描いている直線や曲線、単純化された川やそこに描かれている装飾的な模様など造形的要素が発見しやすく、金を使った表現など関心を持ちやすい作品であり、これまでの美術の学習で身に付けた形や色彩、光、材料といった共通事項も活かしながら日本の伝統美のよさを理解しやすいと考える。

さらに、今日の和風デザインにも大きな影響を与えている尾形光琳のデザイン感覚や高い装飾性などをじっくり鑑賞させることにより、生徒たちが新たな見方や感じ方を広げ、自分の価値意識をつくり出していく鑑賞活動になることも期待できる。このような理由により本教材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、素直に表現や鑑賞の活動に取り組み、自分なりに創意工夫して制作しようとする生徒が多い。第2学年時では「和の美術」という題材で日本の伝統文化について学んでおり、四季の移ろいを感じる日本人の感性や「わび」・「さび」・「もてなしの心」・「茶の湯の心」など日本人が古来大切にしてきた美意識について知り、卓上屏風の制作を行っている。その中では日本の伝統美を意識しながらも、自分の感性を活かした作品づくりが多く見られた。一方、日本の伝統的な美意識が今日の生活にも息づいているものとして捉えられていない生徒や、ある程度理解はしているものの、それを自分の作品に活かすところまでは至っていない生徒も見られた。また、4月に行ったアンケート調査でも「鑑賞の学習がやや苦手」と答えた生徒が約3割いた。このように、鑑賞の学習に苦手意識を持っている生徒や日本の伝統文化に対する理解に今ひとつ深まりが感じられない生徒に対して、実物大の作品を見せたり、それについて感じたことを互いに述べ合ったりすることで、作品を鑑賞することの楽しさを味わわせたい。また、日本の美術作品を外国の方に紹介するという目的を持たせることにより日本の伝統文化に対する理解を高めさせ、美術を通じた国際理解へとつなげさせたいと考える。

(3) 指導観

本題材の指導に当たっては、鑑賞の基本的な力を身に付けさせるとともに、他者との話し合い活動において新たな見方や感じ方に気付き、自分の見方や感じ方を広げる活動にしたい。また英語の文化圏で育った外国の方に、日本の伝統文化のよさを分かりやすく伝え、外国の方にも自国の美術作品等について紹介してもらうことにより、日本の美術や伝統文化に対する理解を一層深め、外国の文化との相違や共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わわせたい。そうすることによって、作品を鑑賞することの楽しさを味わわせたり、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造への関心高めさせたりすることができると思う。

そのためにはまず、尾形光琳の「紅白梅図屏風」を鑑賞させ、当初の自分の感想を大切にさせる。そして自分が感じたことや疑問に思ったこと、調べたいことなどを発表させる。そこで出された内容によって鑑賞の視点ごとにグループをつくらせる。ここでは福田隆眞の鑑賞の視点を参考にして、グループをつくることにした（表1）。

直感的な見方	分析的な見方			
①主題や発想の視点	②技術・技法の視点	③造形要素の視点	④美術史的視点	⑤用途や機能の視点

表1 鑑賞の仕方の視点（参考：福田隆眞「美術科教育の基礎知識」）

次に各視点から「紅白梅図屏風」についてグループで調べ学習をさせ、分かったことを外国の方や友達に紹介させる。本学年の生徒は第2学年時において、日本の伝統文化についての基礎的な学習を行っている。第3学年時ではそれらの学習を更に発展させ、日本の美意識や伝統文化についての理解を一層深めるために、日本とは異なった文化を持つ外国の方に日本代表する伝統的な作品を紹介しようという設定にした。これは、英語の文化圏で育った他者を尊重する態度と、他国の文化への理解を深めることにもつながると考えたからである。また英語での紹介文を考えさせることで、一つ一つの言葉に含まれる日本の伝統文化の意味を深く考えることができ、相手に分かりやすく伝えることができると考えた。ここでは細かい英語の文法等は問わず、より良く伝えるために英語による紹介文だけでなく、イラスト・図等を取り入れた説明になるよう表現活動を取り入れる。

また、外国の方にも、その国の伝統的な美術作品等を紹介してもらい、互いの相違や共通性に気付かせ、それぞれのよさや美しさなどを味わわせる。

そうすることによって、日本の美術や伝統文化に対する理解と愛情を深めさせるとともに、美術を通じた国際理解を深めさせ、美術文化の継承と創造への関心を高めさせたい。

3 題材の指導目標

- 「紅白梅図屏風」について自分なりの見方を深め、自分の価値意識をもって批評し合うなどして日本の伝統美への関心を高め幅広い鑑賞を行うことができる。
- 美術作品などに取り入れられている自然のよさや美しさ、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解することができる。
- 日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深めることができる。

4 題材の指導計画（全3時間 本時3／3）

(1) 評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
① 形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に作品のよさを感じ取ろうとしている。	① 形や色彩の特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
② 日本と外国の美術や文化の相違と共通性などに関心をもち、主体的に美術文化への理解を深めようとしている。	② 日本と外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化を継承し創造していくことの意義を感じている。

(2) 指導と評価の計画

時	指導内容	評価規準
第1時	1 「紅白梅図屏風」を鑑賞して初発の感想を書かせる。 (1) 自分が見つけたこと（構成物）や疑問に思ったことなどについてワークシートに記述させる。 (2) 見つけたことについてそれにはどのような意味が込められていると思うか、疑問に思ったことについてなぜそう感じたのかをワークシートに書かせる。 2 見つけたことや疑問に思ったことについて、発表させる。 3 発表の内容を基に鑑賞の視点に照らし合わせ、グループ分けをする。 4 調べたい内容をしぼらせ、ICT機器を使って調べ学習をさせる。 5 調べて分かったことを基に、既習の学習事項もキーワードカードで確認しながら、外国の方に紹介する文章をグループで考えさせる。	アー① エー① アー②
第2時	1 紹介する内容をグループで考えさせる。 (1) 分かりやすい紹介にするために、文章での説明だけでなく説明に必要なイラストや参考資料などもグループで準備させる。 (2) 役割分担を考えさせる。 (1グループ5～6人の5グループ) a, (英語での紹介係) b, (日本語訳での説明係) c, d, e, f, (イラスト・画像・資料提示・小道具係) 2 発表のリハーサルをさせる。	アー① アー② エー①
第3時 (本時)	1 「紅白梅図屏風」について、グループでまとめたことを外国の方や他のグループに紹介させる。 2 発表を聞いた感想を述べてもらう。 3 外国の方の母国の美術文化などについても紹介してもらう。 4 紹介してもらったことと日本の美術文化との相違や共通性について考えワークシートに記入させ、もう一度「紅白梅図屏風」を鑑賞しての新たな自分の感想もワークシートに記入させる。 5 外国の方に、本時の授業全体を通しての感想を述べてもらう。	アー② エー②

5 既習事項との関連を踏まえた「判断基準」

本題材は、第2学年時のデザインの題材である「世界を魅了したきらめき」において、日本の伝統美や金色を使った表現の工夫の学習と、第3学年時の鑑賞の題材である尾形光琳の「紅白梅図屏風」を他者に伝える学習において、さらに日本の伝統美を深く味わい、外国の美術文化にも目を向けさせるという学習を関連させたものである。これらの学習を関連させることにより、自分の新たな価値意識を発見させたり、他者と意見を交えたりしながら作品を鑑賞する楽しさを味わわせ、思考・判断・表現する鑑賞の能力を高めさせたい。

「判断基準」の設定に当たっては、造形的な要素に関して、金色の効果からさまざまな色彩や形の効果へと発展させ、伝える相手についても同じ学級の友達から外国の方へ向けての発表や相互理解へと発展させた。

既習の題材名	本時の題材名
「世界を魅了したきらめき」(第2学年デザイン)	「伝える、日本の伝統美」(第3学年 鑑賞)
評価基準	
○ 日本の伝統美に親しみ、金色を使った工芸品や屏風などについてよさや美しさを感じ取り、自分の感じたことを工夫して発表している。	○ 日本の伝統文化を代表する尾形光琳の「紅白梅図屏風」を鑑賞して、そのよさや美しさ、日本の伝統美を感じ取り、外国の方に伝える工夫をして紹介している。

既習の題材名 「世界を魅了したきらめき」(第2学年デザイン)	本時の題材名 「伝える,日本の伝統美」 (第3学年 鑑賞)
○ 他者の発表をしっかりと聞き,自分の感じ方との相違や共通性を理解している。	○ 外国の伝統的な美術作品等のよさを味わい,互いの相違や共通性に気付くことができる。
評価の場面	
○ 自分の感じたことを発表している場面 ○ 他者の発表を聞いている場面	○ 外国の方や友達に紹介している場面 ○ 外国の方の紹介を聞いている場面

評価の対象	
○ 発表内容 ○ 自分の感じたことや考えたことを書いたワークシート	○ 発表文と発表の工夫 ○ 自分の感じたことをや考えたことを書いたワークシート
判断の要素	
ア 金の効果を用いた表現の理解 イ 他者の考えとの相違や共通点 ウ 自分が感じたことや考えたことについての根拠	ア 「紅白梅図屏風」についての色彩や構成,造形的なよさ等に関する理解と発表の工夫 イ 外国の美術文化との相違や共通点 ウ 自分が感じたことや考えたことについての根拠
判断基準B	
ア 金の効果を理解し,それが使われていることによってどのような印象を受けるかについて述べている。 イ 他者の考えとの相違や共通点について述べている。 ウ 自分が感じたこと考えたことについて,根拠を明確にしてワークシートに記述している。	ア 「紅白梅図屏風」に使われている色彩や構成等について日本の伝統文化に関係付けて述べ,分かりやすく伝える工夫をしている。 イ 外国の美術文化との相違や共通点について述べている。 ウ 自分が感じたこと考えたことについて,根拠を明確にしてワークシートに記述している。
<p>【予想される生徒の表現例】</p> <p>金を使うと明るく豪華な感じがする。それは,金が黄金やまぶしいものを連想させ楽しい気持ちになるからです。</p> <p>Aさんは金は何の色にも合うと思うと言っていました,私もそう思います。</p>	<p>【予想される生徒の表現例】</p> <p>(英語の文) Korin draws the <u>red plum blossoms and the white plum blossoms.</u> They celebrate the coming of spring. Because <u>we use red and white to celebrate happy events in japan.</u></p> <p>(日本語の文) 光琳は,<u>紅い梅と白い梅の花が美しく咲いている様子</u>を描いた。紅と白は春が訪れることを祝う気持ちを表している。<u>紅と白は日本人が古来から祝い事に使ってきた色だからである。</u></p> <p>(ワークシートの記述) ミネソタ州の伝統行事 ミネソタ州フェスタに使われている作品は,動物や植物などを身の周りにある自然を多く活かしている。<u>自然の美しさを生活の中に活かして味わう</u>というところは日本と同じだと思う。 <u>自然の形や色は,生活の中であって見る人の心を和ませるものだと思う。</u> * ア, イ, ウ は判断基準Bを表す</p>
判断基準A	
(判断基準Bに加えて) 日本美術の影響を受けた西洋の画家などについても述べている。	判断基準Bに加えて) 他の国との文化の違いと共通性を理解し尊重しようとしている。

6 本時の実際 (3 / 3)

(1) 題材名 「伝える, 日本の伝統美」

(2) 学習目標

- 日本の伝統美について理解を深めるとともに, 外国の美術文化との相違や共通性に気付き, それぞれのよさを味わうことができる。
- 「紅白梅図屏風」や日本の伝統美について, 文化の違う外国の方に伝えるために工夫して発表することができる。

(3) 既習事項との関連を踏まえた指導の工夫

ア 知識・技能の活用を図る指導

(7) キーワードカードの活用

学習課題を設定する際に, 既習事項の学習内容を振り返る発問を投げかけ, キーワードカードを活用し, 既習の学習と本時の学習の関連を意識させる。そうすることにより, 生徒が既習の学習内容を活用して本時の学習に取り組みやすくなるを考える。また, キーワードは黒板に常時貼って意識させることで, 授業中にいつでも確認できるようにしておく。

(4) 自他の意見を出し合う場の工夫

思考力・判断力・表現力を高めるために, 自分とは異なる他者の意見を聞くことは大変有効である。そのため, 既習事項を踏まえて, グループやペアで自分の考えや調べたことを発表し合ったり, 他者の考えに対して自分が思ったこと感じたことを述べ合ったりさせる。そうすることにより自分の見方や考え方を広げたり, 新たな見方に気付いたりすることができる。改めて自分の個性を確認したりすることができる。このような活動を繰り返す中で思考力・判断力・表現力は高められていくと考える。

イ 「判断基準」に基づく補充・深化指導

(7) ワークシートの活用

自分の考えをまとめたり振り返ったりさせるために, 自分の思いや考えを学習の流れに沿って整理させたり, 他者の発表を聞いたり話し合ったりしたことで得た新たな見方や価値観などをワークシートに記入させる。

(4) 新たな視点を与える発問や資料の提示

判断基準Bを満たしている生徒については, 深化指導として更に広い視野を与えるような作品例を紹介する。そして世界には色々な文化を持つ国があり, 他国の文化と比較することで改めて日本の文化の特色やよさを理解させたい。

(4) 授業の展開

おもな発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導の工夫
導入	3分 3分	一斉	1 前時の確認をする。 2 本時の目標を確認する。 外国の方や友達に「紅白梅図屏風」を紹介し、日本の伝統美を伝えよう。 3 発表の仕方について説明を聞く。	・ キーワードカードなどを使って発問しながら前時の確認をする。 役割分担がスムーズに行くように配慮する。 分かりやすく伝える工夫をして発表しよう	アー(ア) 色・形など共通事項に関することや、既習学習の「わび」「さび」「もてなしの心」「自然」などのキーワードカードを使う。
展開	25分	グループ 個人	4 「紅白梅図屏風」と日本の伝統美についてグループでまとめたことを紹介する。 (5つの視点) ①主題・発想の視点 ②技術・技法の視点 ③造形要素の視点 ④美術史的視点 ⑤用途や機能の視点 (予想される生徒の表現例) 発表する生徒 (英語) Korin draws the big river in the middle of this picture. It has a beautiful design. It is very mysterious. We thought, Korin represent the passage of time, by this design. (予想される生徒の表現例) 聞く生徒 川のデザインは、色々なものをきれいにするような意味も持つのではないかな。	・ 5つの視点を基にグループ毎に発表させる。 ・ 外国の方にも分かりやすいように表現を工夫させる。 ・ 一つのグループの発表が済んだら1分間ほどワークシートに感想を書く時間をおき、1～2人に発表の感想を聞く。 ・ 発表したグループは自分たちの発表についての感想を書く。	アー(イ) 他者の意見を聞くことで自分の見方を広げたり深めたりさせる。

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導の工夫
展開	5分	一斉	5 生徒の発表を聞いて、外国の方に感想を述べてもらい自国の美術作品等についても紹介してもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> 資料や日本語も使い生徒に分かりやすく説明していただく。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">アー (イ)</div> 見方を広げさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イー (ア)</div> 自分の考えを整理させたり、友達の意見を参考にしたりさせる。
	1分		6 外国の美術と、日本の美術や文化についての相違や共通性について話し合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">日本の文化との相違や共通するものは何だろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> 周りの生徒と話し合わせる。 	
	3分	個人	7 ワークシートに記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (予想される生徒の表現例) 日本人は季節の美しさなどを大切に、それを生活の中に生かしてきた文化がある。外国にもそのように身の回りの自然に愛着をもって生活してきた文化があると感じた。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに相違や共通性についてまとめさせる。 なかなか書き出せない生徒については、ワークシートを振り返らせたり助言したりする。【補充指導】 	
	3分	一斉	8 発表させる。 9 外国の方に感想を述べてもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> 新たな気づきや広い見方感じ方を意識して聞くようにさせる。 	
	3分		10 改めて「紅白梅図屏風」を鑑賞させ、新たな自分の気づきや感想をワークシートに記入させる。		
終末	3分	一斉	11 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 作品を鑑賞する楽しさを味わい、自分の中に新しい価値をつくり出すことができた。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の振り返りをさせる。 他の国の美術作品についても短く紹介する。 【深化指導】 自分なりの価値意識をもって鑑賞することの楽しさや、自分が感じたことや考えたことを他者に分かりやすく伝え合い、より深く作品を味わうことの大切さなどについて知らせる。 言葉は違っても美術作品などを通じた表現は世界共通であり互いのよさを理解し合うことは国際理解につながることに知らせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">イー (イ)</div> 世界の色々な国の文化へ目を向けさせる。
	1分		12 本時の学習について自己評価をさせる。		